

コンテナ苗による造林コストの縮減に向けた取り組み

【背景】

- 国土の保全を図るとともに、健全な森林を整備していく上で、造林未済地の解消は重要な課題となっている。
- 造林意欲を高めるためには、採算性の向上、とりわけ初期段階の造林コストの縮減が重要であり、近年、コンテナ苗の利用に注目が集まっている。

【現状】

- 初期段階の造林コストが大きな負担となっている。
- コンテナ苗については、国有林で試験的な導入が始まったが、民有林においては殆ど利用されていない。
- コンテナ苗のメリットが十分に発揮できる作業方法等が未確立である。

【将来的な目標】

- コンテナ苗のメリットを発揮させるための作業方法の確立と普及を通じて造林作業におけるトータルコストの縮減を図り、造林意欲の向上に寄与する。

【具体的な取り組み】

- 地域の造林事業(更新)の実績と予定量の把握
- コンテナ苗や植付用器具類の特徴及び問題点の把握と分析(既存植付用器具の改良等)
- コンテナ苗のメリットを発揮させるための検討等(国有林野のフィールド活用)
- 民有林関係者とのコンテナ苗の利用に向けた情報交換
- 森林整備計画(特定間伐等促進計画)事業地等におけるコンテナ苗の利用等

種苗関係者との打合わせ



武田式二号
(改良器具)



署チーム
による
取組み



マルチキャビティーコンテナ

北の国・森林づくり技術交流発表会



【平成26年度の取り組み成果】

- 地域の造林事業の現状を把握
 - コンテナ苗活用のための問題点の把握と分析等
 - コンテナ苗の植付工程の向上に資する植付用器具の改良
- ⇒ 平成26年度北の国・森林づくり技術交流発表会への参加、発表